SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

V 地域交流：全員参加型討論会「静岡の特徴って、なーんだ!?(話っ、輪っ、和っ！2014)」(年次報告(平成26年度後期・27年度前期))

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2016-06-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 袴田, 麻里 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00009663

リッジプログラムの広報を行った。

9月12日㈯から14日㈪まで、ベトナム人留学生2名が浅羽ベトナム会会員の家庭にホームステイし、日本の家庭生活を体験した。

全員参加型討論会「静岡県の特徴って、なーんだ⁉（話っ、輪っ、和っ！2014）」

袴田　麻里

事業の主な成果は、大学生が実行委員として大学生のための企画を考え運営したことにより、大学生の視点から国際交流、地域交流を企画できた点である。与えられた機会ではなく、大学生自らが交流の機会を作る過程は、実行委員の大学生にとって困難な面もあったが、大学、国籍の枠を越えて深く接するきっかけともなった。そのおかげで、国際交流事業として実施したが、参加した学生同士が「国が違うから」交流するだけではなく、「同じ静岡県で学ぶ大学生」として交流する機会ともすることができた。静岡県が観光資源に恵まれていることや交通が便利なこと、その一方で自分たちが有名なお茶や観光地であってもよく知らないことに気づく機会となった。また、留学生の母国の交通事情や就職事情、エネルギー開発など、比較することで、静岡県や日本の特徴と課題が明らかになった。

参加学生には、静岡県の文化や史跡に対して高い関心を持つ大学生が多かった。これは、富士山が世界遺産登録されたこと、実行委員会が静岡県国際交流協会の企画（富士山・浅間大社へのバスツアー）に協力し、口コミで参加者を募ったことによる効果である。留学生、日本人学生が静岡県の魅力を知ることは、現在自分が静岡県で学んでいる意味を確認する意味を持つだけでなく、彼ら自身が国内外へ向けての魅力あふれる「静岡」の情報発信源となることも期待できる。また、このツアーに参加した学生が12月の話っ、輪っ、和っ！2014「静岡県の特徴って、なーんだ⁉」にも参加し、継続した交流を実現することができた。

このように、留学生と日本人学生は同世代の者として、大学生にふさわしいレベルで身近な話題から国家間の問題まで様々な事柄について意見を交わし、新しく人脈を広げることができた。大学生が大学生に対してこのような交流機会を恒常的に提供することは、魅力的な静岡県作りに貢献できる人材、また多文化共生社会実現に向けての人材育成につながる。

今年度は、社会人アドバイザーとして、話っ、輪っ、和っ！実行委員OB・OGが5名参加した。これまで実行委員の学生、参加者の学生が大学を卒業すると大学とのつながりが希薄になり、後輩の大学生たちに彼らの経験や実践を還元できないことが課題であったが、今年はすでに社会人として活躍しているOB・OGが学生時代とは異なる立場で関わったおかげで、話っ、輪っ、和っ！で築いたネットワークを維持し拡大することができたと思われる。今後も様々な機会を利用して、OB・OGのネットワークを活用したいと考えている。